

研究タイトル：

英語学習における脱動機付け(demotivation)に関する研究

氏名：	佐竹 直喜 / SATAKE Naoki	E-mail：	satake@gifu-nct.ac.jp
職名：	講師	学位：	教育学修士
所属学会・協会：	全国英語教育学会、中部地区英語教育学会、日英英語教育学会、英語授業研究学会、筑波英語教育学会、言語文化学会		
キーワード：	動機減退、気づき、ライティング、リスニング、リーディング、英語授業		
技術相談 提供可能技術：	・ ・		

研究内容：

H27 年度、岐阜工業高等専門学校に着任しました、佐竹直喜です。H26 年度まで愛知県の公立高校で英語教員をしておりました。高校教師として、生徒に英語の授業などをしながら、英語の指導や学習者の言語習得について研究を進めてきました。そして、高校教師の経験を活かし、英語指導についての実践と研究をさらに深めていければと思います。

最近特に取り組んでいるのは英語学習における動機減退(demotivation)についての研究です。motivation とは反対で、「どんなことが原因で英語学習のやる気がなくなってしまうのか？」ということに取り組んでいます。

demotivation の主な原因は、教師要因・授業要因・失敗の経験・教室環境・教材要因・興味の損失(Sakai and Kikuchi, 2009 を参照)などがあります。教師の立ち振舞いの違いでも学習者の動機づけに大きく影響します。

Agawa and Ueda (2013)のアンケート調査では、脱動機付け克服の一つの主なものとして、目標設定がありました。そこで私は、目標設定をすることで、動機減退軽減(demotivational reduction)につながるかどうか、それが実際の授業の中でも効果のある指導が可能かどうか、調査を進めています。

本年度(H28 年度)、第一歩の成果を以下の論文にまとめることができ、佳作論文として採用されました。

Satake, N. (2017). Demotivational reduction through goal setting in EFL learning. *Tsukuba Review of English Language Teaching*, 38, 99-117. (第 19 回 筑波英語教育学会 新人賞 佳作論文)

全体として、目標を設定することが果たして脱動機付け軽減につながるか今後再検証の必要性はまだありますが、目標達成度の高い学習者は、動機減退を軽減できていることが考察されました。

参考文献

- Agawa, T., & Ueda, M. (2013). How Japanese students perceive demotivation toward English study and overcome such feelings. *JACET Journal*, 56, 1-18.
 Sakai, H., & Kikuchi, K. (2009). An analysis of demotivators in the EFL classroom. *System*, 37, 57-69.

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)	